

平成 26 年 7 月 31 日

大山町議会議長 野口俊明 様

報告者 教育民生常任委員会委員長 西尾寿博

教育民生常任委員会行政視察報告書

□視察日程 平成 26 年 7 月 16 日（水）～18 日（金）

□視察先及び視察テーマ

- | | |
|---------|--|
| 沖縄県嘉手納町 | ①人材育成交流事業の発展について
②基地問題とその対応について |
| 沖縄県北中城村 | ①女性長寿日本一について
②国民健康保険税の状況について |
| 沖縄県南風原町 | ①長寿に向けた取り組みについて
②こども医療費助成制度について
③沖縄陸軍病院南風原壕群について |

□参加者

西尾寿博委員長、野口昌作副委員長、吉原美智恵、遠藤幸子、加藤紀之、提嶋護大
（嘉手納町のみ）森田増範町長、山根浩教育長

□視察内容

嘉手納町（かでなちょう）

～ 人材育成交流事業の発展について ～

昭和 63 年から続いている嘉手納町・大山町人材育成交流事業は、今年度で 27 回目となり、交流人口は、述べ 830 人となっている。

異なる風土・生活習慣にふれながら相互理解を深め、郷土に生きる自覚を促し、夢と希望、勇気、自信のある次代の人材育成を図る大切な事業となっている。

今回の視察の成果として、新たな発展の方策を提案することができた。大山町での 1 次産業体験や、嘉手納町での基地内研修などを

提案した。さらなる人材育成につながることを期待している。



～ 基地問題とその対応について ～

3市2町2村にまたがる米軍嘉手納基地。なかでも嘉手納町は、町の約83%が基地として接収されており、まちづくりに大きな支障をもたらしている。知識では分かっていたが、現地に行って、はじめて実感できる基地の大きさであった。

嘉手納町は制限されているなかでも、交付金の獲得や国の機関の誘致など、できる限りのまちづくりを進めており、見習うべきところが多かった。

オスプレイについては、現在配備反対を貫いている。



北中城村 (きたなかぐすくそん)

～ 女性長寿日本一について ～



平成22年厚労省が発表した市区町村生命表における平均寿命が女性89.0歳と日本一

になっている北中城村であるが、65歳未満の死亡率が15.3%と高くなっている。このため新たに『健康長寿のまちづくり計画』を策定し、役場全庁が連携して、行政すべての事業を健康と関連付けて取り組んでいる。

高齢者に生きがいをということ、女性には話し合いの場を、男性には奉仕作業など活動の場を設けることで、家への閉じこもりを減らす活動は、参考になった。

～ 国民健康保険税の状況について ～

北中城村の国保税算定率は、大山町と比較し低く抑えられている。しかし現状を伺うと、国保会計は常に赤字決算で、基金も100万ほどしかなく、毎年赤字額の2分の1を法定外で一般会計から繰り入れしており、赤字は膨

らむ一方とのこと。国保税の算定率も沖縄県内では上位6番目で、簡単には上げられない。

将来の大山町の姿がここにあるように見えた。

～ 長寿に向けた取り組みについて ～

南風原町は男性長寿日本第5位、沖縄県第1位であるが、北中城村と同様に65歳以下の死亡率の高さに危機感を抱いており、長寿復活に向けた取り組みを進めている。

特に肉や油が中心となった食生活の改善に力を入れている。その中で、健康的なレン

ピを集めたカレンダーは有効であると感じた。毎日目にすることで、健康に対して少しでも意識が向くと思われる。

今回の視察では、大山町と比較したたくさん資料を作っていた。このようなおもてなしの心は見習いたいと感じた。

～ こども医療費助成制度について ～

現在沖縄県では、3歳までが通院の医療費助成の対象となっている。しかし沖縄県内の多くの自治体が独自に、中学卒業までの通院費を対象に、また食事療養費にも助成を行っており、市町村間での格差が浮き彫りになっている。南風原町では今年の4月から中学卒

業までの通院費を対象に含めることにし、その成果はこれからとのこと。

大山町での実施は、なかなか難しいかもしれないが、これから何に投資をしていくかということをしっかり考える機会となった。

～ 沖縄県陸軍病院南風原壕群について ～

太平洋戦争末期、沖縄はアメリカ軍との戦いの最前線となり、多くの犠牲をはらった。空襲により病院施設が焼失したため、手掘りで壕や、自然の洞窟を病院として利用した。

今回実際に壕に入ったが、ほとんど明かりもなく、換気も排水もままらない場所で、設備もほとんどない状況での看護活動は、想像を絶するものがあった。

しかも最終的には、重症患者には青酸カリが配られ、自決の強要をされた。また、アメリカ軍の火炎放射で壕の中は焼き払われた

という。

戦争の最前線の悲惨さを改めて痛感させられた。



□所感

・西尾寿博委員長

まず、超大型台風8号が去って1週間、爪痕が残っていたにもかかわらず、どこも丁寧な対応ですばらしい視察ができたこと感謝しています。

基地に関わりのある団体、個人には、様々な補助金、委託金などがあるが、失業率は高く貧富の格差が大きいようです。

また、長寿のまちが欧米型の食生活に

より65歳以下の死亡率が日本一になっている中、地元野菜を使用した従来の食生活を取り戻そうと様々な取り組みを図っていました。

特に交流27年目の嘉手納町では議会との初交流となり、教育関係以外でも発展的交流が期待される視察となりました。

・野口昌作副委員長

嘉手納町では、町面積の83%が基地（飛行場・爆薬庫・貯油施設）であり基地の町の実態を見る事が出来た。人材育成交流事業は27回目となり、これまで約400名の交流があり、有意義な交流であると捉えられており、継続すべきと感じた。

北中城村では、女性長寿日本一になった事があることから、維持する取り組みに意欲を感じた。国民健康保険会計の滞納指導に村長も出かけており、高い行政意識を感じた。

南風原町では、沖縄県の平均寿命が2

010年男性31位女性3位に下がったことから、長寿に向けた取り組みが、データ分析に基づく指導と、カレンダーでの各戸への周知、検診の徹底に向けて集落の検診協力員との連携の強化など、取り組みに成果が上がっており参考にするべき点が多かった。

沖縄陸軍病院南風原壕群の現地視察で、壕内が黒くなっており、聞かされていた火炎放射機の「すす」の痕だとのこと。何本も造られた壕内病院、病院も野原も焼き尽くされた実態を垣間見た。戦争の悲惨さものの凄さを感じた。

・吉原美智恵委員

今回の研修で、まず最初に嘉手納町を訪問しましたが、80%以上を米軍の基地が占めているという現実を目の当たりにし、同じ日本でありながら異国の地のような感慨をもった。

また同じ沖縄でありながら、南風原町のように反戦色の強い地域と、基地に頼らざるをえない嘉手納町と、それぞれに

立場の違うあり方を体感し、複雑な気持ちとなった。

さらに、長寿県といいながら、実は60代以下の死亡率が全国一であり、危機感を募らせている北中城村の健康施策や、南風原町の長寿復活に向けた取り組みは、わが大山町においても参考にするべき点が多いと感じた。

・遠藤幸子委員

長寿の県「沖縄」との認識で訪れたのに、現実には70歳～80歳代の人たちは長寿であっても、65歳以下の死亡率が高いのが現実。

長寿復活に向けた取り組みを進めている南風原町。長寿全国1位の頃の食生活と、現在の食生活を比較しながら、細か

い食の指導、住民に分かりやすい資料の提供など、保健師の活動内容には感心するばかり。

いろいろと資料をいただいたので、大山町でも利用できるものは活用したいと考えている。

・加藤紀之委員

米軍基地を抱える現地を訪ねた際の第一印象は、人口密度の高さであった。居住可能地に限られる反面、コンパクトシティの模範のような街並みで、若い世代はもちろん、高齢者にも便利であろうと感じた。

出生率は高く、人口減少の問題とは縁

遠いようだが、離婚率と65歳以下の死亡率の高さに悩まされているとのこと。

嘉手納町では第一次産業従事者は少なく、2%に満たない。このことから、子供は農作業などの経験はないと推測される。人材育成交流では、そのような体験をしてもらえるよう提言した。